

研究分野のキーワード：社会的排除，福祉のまちづくり，ローカルガバナンス

研究紹介

人は一人では生活できません。社会の中で、地域の中で、様々な社会関係により影響を受け、そして影響を与えながら生活しています。しかしながら、現代社会では、社会的制約を被り、社会の中で生活がままならない方々が多くいます。私の研究を例に挙げて考えていきましょう。

まず、ここ数年間で身体障害者の外食に関する研究を行いました。現代社会では、外食という行為は、多くの人たちにとって一般的な（ノーマルな）行為です。友達や家族とランチをしたり、大人になれば夜にお酒を飲みに行ったりすることは多くの人たちが抵抗なく行っている行為です。しかし、障害者の方々の中には、社会の中の様々な制約により、外食という行為がスムーズにいかないことが多いのです。

二つ目の例を挙げましょう。若者の自立支援も私の研究テーマの一つです。近年若い人たちの就職が社会問題となっています。多くの人たちにとって、学校卒業後に職に就くことが求められます。しかし、一部の若者にとってこの就職という行為が極めて難しくなっています。また就職だけではなく、家族内の生活や友人関係など生活の様々なところに制約を受ける人たちがいます。現代社会では、資本主義社会に基盤となる就労など生活の基盤を整えることのできない人も多いのです。

最後に、高齢者福祉の例を挙げましょう。介護サービスや生活支援サービスを提供することは高齢者福祉にとって重要なテーマです。しかし、多くの高齢者たちがこのようなサービスを十分に受けることができず、社会の中で孤立している現状があります。孤独死や老老介護による無理心中、高齢者虐待などの事例が顕著になってきています。

人は社会の中での関係性により生活を成り立たせていますが、上記の例のように、生活の多くの場面で、社会関係が十分に築けず、多くの人たちにとって当たり前（ノーマル）なことができなかつたり、生活が困窮してしまう人たちが増えつつあります。そのような人たちは社会の中で孤立しています。この状況をヨーロッパでは、社会的排除（social exclusion）と呼んでいます。この社会的排除をどのように克服するのか、人の社会関係をつなげる仕組みをどのようにつくっていくのが私の研究のテーマです。このような研究を行うに当たって、「人」のみに着眼しては解決できません。現代社会では、社会構造が大きく変わり、とりわけ地域社会に大きな負の影響を与えています。そのため、グローバルに様々な社会的影響を眺めながら、地域レベルで生活できる仕組みを考えていかなければならないと考えています。これまでの社会構造をとらえなおし、地域レベルで生活を再構築しようとするローカルガバナンスという考え方にも着目しています。人の生活に着眼し、人が排除されず、福祉や生活を中心としたまちづくりをどのように実現していくのか考えていきましょう。